



「ほっとルーム」だより

第167号 令和4年7月1日発行
いちき串木野市家庭教育支援連絡協議会
(子どもみらい課内 TEL 33-5618)

お母さんたちにとって忙しい夏休み前に

子育て悩み相談より、児童精神科医・佐々木正美先生の 回答を紹介します

しかりすぎて
子どもを
責め立てて
しまいます



(9才男の子・7才女の子の母)

子どもたちを1日に10回くらいはしかっている。しかりすぎだという自覚はあるが、兄は妹をたたいたり、妹はしょっちゅうダダをこねて、わざと物を投げたり壊したりする。

私は、子どもたちの行動を理解できず、「なんでそういうことするの?」「やっていいことと悪いことがあるの、わからないの?」と責め立て、傷つけ追い詰めるようなことまで言ってしまう。子どもたちは泣いて、手をついて謝ってくる。

そんな私を、子どもたちは「好き」と言ってくれる。本当だろうか?

激しくしかるほど“しかられる子”になります。
やさしく穏やかに伝えれば“しからなくていい子”になっていくものです
まず変わるの親のほうです。「しからない」と心に決めて接するので

しかりたくてしかっている親はいないでしょう。でも多くの親は、「しからないで育てるなんてできない」と思い込んでいます。だから親は「子どもがしかられるような行動をやめてくれたら、わたしもしからずにすむ」と考えます。子どもに先に変わってもらおうと、そう思っているのです。

でも、変わるの親のほう先です。順番は、必ず大人からです。子どもよりも大人のほうが、先に変わることができるからです。

「こんなことは、するもんじゃなくよ」「こうしたらいいんだよ」と言うのはいいのです。ただ、怒ったり、どなったり、命令したりするように言う必要はありません。

静かに考えましょう。わが子のいいところ、かわいいところを

そして、ご自身を静かにしかってください。それは、自分自身をふり返ってということです。今日はどんなことで子どもを責め立てたのか、ゆっくり考えてください。「ここでは、こんな言い方をすればよかった」「このとき、あの子は私にこうしてほしかっただけなんだ」と気づくかもしれません。

人間は大人になっても、いいえ、死ぬ直前まで、自分で自分を育てていくのです。そのためにも、静かに自分を見つめ直してください。

そして、わが子のいいところ、ほめたいところ、好きなところ、そういうところを一生懸命に考えるといいですね。欠点や弱点のない人はいません。でもその欠点がどんな形で出るかは、家庭の環境ひとつで違って来るものなのです。

きょうだいゲンカときは、ケンカに立ち入らないことです。「なんでケンカしているの」「あなたが悪いでしょう」「お兄ちゃんでしょう」「妹でしょう」と、そういうことは言わないのです。タイミングを見はかち「これでおしまい」とだけ伝えてください。ダダをこねるのであれば、抱っこしてあげてください。抱っこが好きな子もイヤがる子もいますが、スキンシップは子どもにとって心地いいものなのです。

この子はこの子のままでいいと思える本 (佐々木正美) より抜粋

~ほっとルーム~
(子どもみらい課内)

子育ての中で、気になること等ありましたら、一人で悩まず、いつでも気軽にご相談ください。一緒に語りましょう。

TEL : 33-5654

FAX : 32-3124

羽島保育園・市来幼稚園で 「おあしす」を開設しました。

6月3日に「羽島保育園」で、6月14日に「市来幼稚園」で、子どもさんの登園やお迎えの時間帯に「おあしす」を開設しました。

それぞれのご家庭で子育てへの思いを抱えながら、子どもに寄り添い、夫婦で語り合ったり、祖父母さんの力を借りたりしながら、子育てに奮闘されている様子をお聴きすることができました。

市来幼稚園では、支援員と参加者の面談が終わると、そのまま続けてお母さん同士の交流もされ、話が盛り上がっていました。



～参加者の声～



「コロナ禍の中では、お母さん方と交流する機会がなかなか作れません。今日は少しでも交流ができたので良かったです。」

「幼稚園で『おあしす』を開設してもらうことは、学校とのつながりを感じるのでありがたいです。」

～支援員より～

私たち支援員も子どもさんの成長やお母さま方の頑張りを聴かせてもらい、笑顔になって帰りました。ありがとうございました。

子育てアドバイス

子どもが生きている、そこにいるということは
何よりも尊い
障害のあるなしではない
学校に行く行かないでもない
成績の善し悪しでもない
わが子がここにいてくれるということが
何よりも尊い値打ちのあることだと思える自分でいたい



・自分のものの見方について考えてみませんか？

人生の先輩から、禅宗のことは教えてもらいました。意味を調べてみて、自分の思い込み等で決めつけてはいけない、物事の見方について考えさせられました。

子育てにおいても、思い込みのまなざしで物事見ていませんか？

子どもと接するときも、いろいろな角度から物事を見つめ、考えることを大切にしたいですね。

禅宗のことは

～担板漢(たんばんかん)～

板をかつぐと片側しか見えないように、物事の一面だけを見て全体を見ることができない人のたとえ。

県の相談機関

かごしま教育ホットライン24 ☎0120-783-574

☎099-294-2200※携帯電話からはこちら

24時間子どもSOSダイヤル ☎0120-0-78310

PTAすくすくライン(家庭教育やしつけについて) ☎099-251-0309